

あきまへん!

アベ政治と京都市政 今こそ共同の力で政治を変えましょう

市美術館の ネーミングライツを 徹底追及

「市民の浄財で開設した美術館が一企業の宣伝に使われ、市民への説明や議会の議決もありませんまま市長のトップダウンで決める市政運営は議会軽視、市民不在である」とネーミングライツ撤回を求めて厳しく追及。理事者はまともに答弁できず、「ご理解をいただきたい」「後戻りはできない」と繰り返すのみ。美術館の財産は寄贈品です。「寄贈者に事前の説明をしたのか」との私の指摘に「決定されれば、丁寧に説明する」と無責任な答弁に終始。

私の質疑は新聞やテレビニュースで繰り返し報道され、議員団の「ネーミングライツ撤回を求める声明」は関係者からも歓迎され、9月市会で



は市長に反省と市民の信頼回復の努力を求める「決議」が可決されました。1998年の「鴨川ポンデザール橋建設」を国際的な世論にも呼び掛けて撤回させた闘いを思い起こし、ネーミングライツ決定の撤回を求めて全力をあげます。

核兵器禁止の流れに 背を向ける日本政府



10月28日に開かれた国連総会第1委員会において、核兵器禁止条約を交渉する国連の会議を来年開く決議案が圧倒的な賛成で採択されました。

この決議の採択を心から歓迎します。ところが、日本政府は唯一の戦争被爆国でありながら、米国などの核保有国と歩調を合わせて決議に反対。被爆2世として強く抗議します。平均年齢80歳を越える被爆者をこれ以上苦しめないでほしい。日本政府は反対の態度を撤回し、来年の国際会議で核保有国に条約制定のために働きかけるよう強く求めます。

京都市が加盟する平和首長会議も、核兵器禁止条約の締結を求めており、国に抗議すべきです。

「原発なくても 電気は足りている」 「原発はほんとは 「コストが高い」

それを実感

したのが決算
委員会の環境
政策局質疑。

「今年の夏、
国は東日本大
震災以降初め
て節電要請を
しなかった。



原発を動かさなくても電気は足りている」と指摘すると、理事者は「電気は足りているという事実はある」。

「ならば原発の再稼働は必要ない」と置みかけると、「原発が動かない状況は、京都市のスタンスと合っている」と答弁。

原発廃炉費用が膨大に膨らんでいることを紹介して「原発はコストが安い、と国や電力会社が推進してきたが、実際には高くついている」と追及すると、「廃炉の金額は安いものではない。経費はかかっている」と認めざるをえませんでした。

今、変えよう!

日本共産党
京都市会議員

井坂博文

いさか ひろふみ

mail shikai@isaka-hirofumi.jp

井坂博文



区民運動会で町内の交流

地元学区の区民運動会。わが町内は「無理せず、あせらず、競わず」をモットーに親睦を目的に参加し、参加賞のティッシュや洗剤などの生活用品が喜ばれている。

私も「(55歳以上の)まだまだ走れます 紅白リレー」にも出場し、「まだ若いね」と激励の言葉をかけていただいた。

近所の居酒屋さんでの打ち上げで盛り上がり、11月に今年2回目のバーベキューをすることになった。町内会活動は楽しい。



この笑顔を守る

8月に娘に生まれた初孫。何とも愛おしくて、見ているだけで癒される。

こんな顔をされてもかわいい。いわゆる「赤ちゃんおにぎり」と言い、巷では、若い夫婦のなかで流行っているらしい。この笑顔を戦争でくもらせてはいけない。

